



第四回 看護師さんに感謝をこめて

生誕二〇〇年「ナイチンゲール」物語

講談師 一龍斎貞花

看護師の歴史は、聖地エルサレムへの巡礼に向かう旅人たちを癒したのが、ヨーロッパ修道院の修道女達でした。神に仕える者の印として、身につけているベール、被り物が、後に看護婦のシンボルとなっていきました。

フロレンス・ナイチンゲールは、毎晩毎晩ランプを持って病室内を廻り、一人一人を慰め励まし兵士達は、フロレンスが廻ってくるのを楽しみに待つようになり、生きる張り合いを取り戻していききました。

戦争中、殺菌処理をされていない肉や乳製品を率先して毒見をしたという説もあり、帰国後ブルセラ症を患う。人も家畜も感染する伝染病で、菌の入っている牛乳やヤギの乳を飲み感染したのではないかと言われます。

クリミヤで経験したことや、今まで勉強してきたことを元にして、「看護法」についてという、一つ一つの病気について手当の方法が詳しく書かれ、この本が出版されるやすぐに、フランス語、イタリア語、ドイツ語に訳され多くの人の参考書になりました。

イギリスに帰って四年目、四十歳の時、ナイチンゲール基金をもとに、ロンドンのセントマース病院の中に初めて看護婦の学校が作られ、看護婦の仕事がとても重要な仕事であることを人々に認めさせていきました。

赤十字創立の原点

クリミヤ戦争から五年後、イタリアへオーストリアの軍が攻め入り、イタリアを助けてフランスが参戦するなど十九世

紀最大と言われるイタリア統一戦争勃発。この激戦地ソルフェリーノに遭遇したスイスのアンリ・デュナンが、地元の人達と協力して負傷兵を救護すると共に、ナイチンゲールの働きに大きな感銘を受け、世界中の人々が力を合わせて敵味方の区別なく、戦争で傷ついた人や病気で苦しんでいる人を救おうではないかと、世界に向かつて呼びかけ共鳴した人々たちによって赤十字が組織されました。

ナイチンゲールの働きが赤十字の原点となりました。

厳しい暑さのため、インドで働いているイギリス兵が次々と死亡、当時インドはイギリスの植民地、インドの人達のためにも道や家など、衛生設備を整えるようインド駐在のイギリス総督に頼み、莫大な費用の掛かることでしたが、フロレンスの心が通じ、段々と美しい街にな

り、疫病も少なくなりインドの人から「インドの母」と慕われるようになりました。

不眠症、うつ、歩行困難

戦争の惨劇で、心の傷を負っていたといわれ、発熱、不眠症、うつに悩み、歩行困難で九十歳で亡くなるまで人生の大半をベッドで過ごしたのです。

しかし五十年間にわたり、医療、看護の現場に革命をもたらし、クリミヤ戦争後死亡率を統計的に分析し、衛生環境によって防げたこと、イギリス政府に報告。衝撃を受けた政府は、ナイチンゲールに看護現場の改善を任せ、窓や照明、ベッドの間隔をあげ換気をする、下水道の処理、病棟の建築デザインを確立し、新鮮な空気と太陽の光を取り入れるこ



と、紐を引くとベルの鳴るナースコール、看護婦イメージ向上のため制服の導入、看護教育によって看護婦の質の向上を推進し、ボランティアという考えを否定し、「犠牲なき献身こそ、真の奉仕である」という考えから、医師の手伝いではなく、プロフェッショナルとして確立させていったのです。

内閣の半数が知人だったといいますが、矢張り政治の力が必要でした。

衛生習慣や、感染症を防ぐにはどうするかなど、医療現場の基本的方針を次々と提案。今、よく手を洗いなさいと言われていたが、一七〇年も前に、ナイチンゲールが言っていたんです。

生涯三・四回プロポーズされたものの、看護の道を追求するため独身を貫いたと申します。

病院の構造と清潔さ、衛生環境など、今では当たり前の医療環境を、病気に苦しみながらこれほどのことをやり遂げ、女性の地位を向上させたことは、ビクトリア王朝時代、異例のキャリアウーマンと言えましょう。

イギリスの子供たちは、必ずナイチンゲールについて学ぶと言われ、日本でも以前は教科書に掲載されていました。今

はありません。今こそ教科書で学ぶことが、相手を思いやる心を育てることになると思います。

イギリスで、新型コロナ患者を受け入れる四千床の仮設病院が4月に開設され、その病院名がナイチンゲール病院。今も患者や看護師を勇気づける存在だと言われます。

看護師のことを、白衣の天使と呼ばれているのは、ナイチンゲールに由来しますが、奉仕するのが当たり前のようにも受け取られていて、現役の看護師さんの中には、白衣の天使と呼ばれたくないという人もいます。プロだからです。

ナイチンゲールは、「天使とは、美しい花をまき散らす者ではなく、苦悩する人のために戦う者である」と

と言っています。プロフェッショナルであると言っているんです。

コロナ対策に、看護師を休職している潜在看護師696人が復帰して軽症者を担当、偏見のある中で復帰してくれたのも、看護精神を活気させたからこそでありましょう。

コロナ重傷者一人に、医師、看護師な

ど10人が対応、濃厚接触者でもし感染したら、医師、看護師不足のところ、大変なことになる。感謝を忘れてはいけません。

ナイチンゲール八十歳の誕生日には、世界中の多くの国からお祝いの手紙や、記念品が贈られ、さらに八十七歳の時万国赤十字社の総会で、国王から女性として一番名誉のある勲章が贈られました。が、この時代代表者から贈られた、「ありがとう」

の言葉こそ、フロレンスにとって一番嬉しい勲章でした。

「私が死んだら、イーストウイロースの両親の側に埋めて下さい。立派な葬儀はいりませんよ」

この言葉を残し、今から110年前の明治43年8月13日、九十歳をもって帰らぬ旅路におもむきました。

イギリスでは、立派な功績を残した人は、ウエストミンスター寺院に葬り、いつまでもその栄誉を称える習わしがありますが、遺言通りF・Nという頭文字が刻まれただけの質素なお墓ですが、大好きな両親の側で安らかに眠っているこ

とでしょう。

私ごとで恐縮ですが、8月の独演会、客数制限とあってチャリティーの販売も少ししか行えなかったが、「ナイチンゲール物語」を口演し、お客様の暖かいお心でご厚志をお寄せ頂き、看護関係にご寄付させて頂くことが出来ました。本当に有難いことでございます。

ジュネーブの国際委員会は、十九世紀が生んだ最も偉大な女性として、業績を記念する、「ナイチンゲール記章」制度を設け、人類愛と看護精神の最高の名誉として全世界の中から、優れた看護師を選んでこの賞が授けられています。

日本人は、1920年大正9年3名が最初に受章し、2020年現在世界の受章者1517名の内、日本人は110人と世界で一番多く受章、日本の看護師がいかに素晴らしいかという証明です。

フロレンスの真心は、今も世界中の看護師さんたちに受け継がれています。愛の心で多くの人を救ったランプの天使、フロレンス・ナイチンゲールの一席を申し上げます。